

令和6年3月15日（金）

14:30～

令和5年度 学校関係者評価委員会

司会 主幹教諭 西原 洋介

1. はじめのあいさつ（司会）
2. 自己紹介
3. 学校関係者評価委員会の趣旨説明（園長）
4. 委嘱状交付（園長）
5. 学校取り組み説明（園長）
 - （1）幼稚園経営説明
 - （2）学校評価
6. 意見交換・懇談
7. お礼・おわりのあいさつ（園長）

津山幼稚園学校評価について

（「幼稚園における学校評価ガイドライン 文部科学省」に沿って評価

1) 幼稚園の自己評価

幼稚園の教育目標を実現するための教育活動が適切に取り組みられたかどうかについて、評価項目に基づいて教職員自身が評価をする。

課題については改善策を練り、園の自己評価報告書を纏める。

2) 関係者評価

学校関係者（保護者や学校役員）で組織し、自己評価報告書を評価し自己評価の客観性・透明性を高める。（本会）

3) 外部評価（第三者評価）

学校運営の改善による教育水準の向上のため、学校関係者評価の結果及び今後の改善方策について、幼児教育や学校のマネジメント等について専門性を有する者（小学校校長）に専門的視点からの評価を行う。

学校（自己）評価（令和5年度）

1・本園の教育目標

- ① 心身ともに逞しい子どもの育成
- ② おおらかで、明るい子どもの育成
- ③ 知性豊かで、賢い子どもの育成

〒901-0301

・沖縄県糸満市字阿波根 746 番地

・学校法人 津山学園

・認定こども園 津山幼稚園

・TEL 098-994-6714

2・令和5年度主要目標

- 1・本園教育目標の達成に努力する。
- 2・文部科学省幼稚園教育要領を踏まえ、本園の特色（動き・リズム・言葉感覚）を加味し、豊かな人間性の根っこを培うよう努力する。
- 3・令和5年度の保育行事計画を設定し、年間、学期、月別に活力に満ちた保育を実践し、子どもたちの健やかな成長を育む。
- 4・幼児の発達に寄り添い、専門・関係機関等と連携しながら指導に当たる。
- 5・園教育目標の実現に向けて職員間で相互理解に努め、調整・連携して職務に取り組む。
- 6・指導力の向上を目指して、内・外研修に参加し、幼児教育に対する専門性を高める。

3・評価項目の取組状況及び達成度

（達成度 4：十分達成、3：ほぼ達成、2：やや達成していない、1：達成していない）

評価項目	取組状況（○成果 ▲課題）	達成度
1・本園教育目標の達成に努力する。	○行事や日々の活動で園が目指している子どもの姿を描きながら保育に携わっている。 ▲新型コロナウイルス感染症が5類移行により、日々の活動や行事等の見直しが急に行われ、種々の変更をよぎなくされ、多少の影響があった。	3.5
2・文部科学省幼稚園教育要領を踏まえ、本園の特色（動き、リズム、言語感覚）を加味して豊かな人間性の根っこを培うよう努力する。	○本園の特色を生かすため、総合幼児教育研究会の研究大会へ職員派遣して活動の充実を図った。 ▲年間指導計画を定期的に見直し、その際、「特色ある活動」への理解を深めたい。	3.5
3・令和5年度の保育行事計画を設定し、年間、学期、月別に活力に満ちた保育を実践し、子どもたちの健やかな成長を育む。	○毎日、保育日誌にて一日の振り返りを行って保育の充実に努めている。 ▲子どもの目線に立った環境構成や自然に触れ合う活動を増やしていきたい。 ▲コロナ後の保育行事計画の策定が必要である。	3.4
4・幼児の発達に寄り添い、専門・関係機関等と連携しながら指導に当たる。	○公的機関の心理士を活用して園児の理解を深めるとともに、保護者との信頼関係を築きながら保育に当たった。 ○毎日のコミュニケーションを大事にし、子どもたち個々の性格や特性の理解を深めることが出来た。 ○保護者と園児の様子を共有を通して連携が深まった。 ○保護者からの意見を聞く際は思いを受け止め聞くことが出来た。 ▲保護者の要望等に対して教育的な意義付けができるものは対応することができたが、応えることができないこともあった。▲新型コロナウイルス感染症が5類移行により、日々の活動や行事等の見直しが急に行われ、種々の変更をよぎなくされ、多少の影響があった。	3.7

5・園教育目標の実現に向けて職員間で相互理解に努め、調整・連携して職務に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ○園の組織の一員として、仕事をするうえで報・連・相を行うことが出来た。 ○情報配信アプリを活用して行事等の情報共有を行うことにより連携が容易になり、円滑な実施に繋がった。 ▲合同で保育を行った際は、遊ぶ時のルールや玩具の使い方などを見直す必要がある。 	3.7
6・指導力の向上を目指して、内外研修に参加し、幼児教育に対する専門性を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館や書店で専門書を入手して自己研鑽に取り組んでいる。 ○今年度は公的な色々な研修に参加出来て有意義であった。 ○公開保育に積極的に参加して、保育の質を高めていきたい。 ▲公開保育を行うことで、環境面の改善や保育計画の評価・反省、よりよい保育につながると思う。 ▲園内外の保育者の保育をもっと知りたい。多くの研修会に足を運びたい。 ▲園独自の研修の充実をさせたい。 	3.2

4・自己評価の総合的な評価結果

<p>園の教育目標達成を目指して全職員が熱心に保育に取り組んだ。今年度は、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことにより、幼稚園教育要領に則りながら、本園の特色を活かした活動を充実させることができた。一方、昨年度と計画を大きく変更する場面もあり、職員の負担は大きかった。日常の保育では園児同士の関わり合いを増やしたり、異年齢の活動を増やしたりすることで、園児の大きな成長に繋がった。保育の環境構成や園の周りの自然環境を活用した保育にも目を向けて活動を広げる取り組みを実施し行事に関しては、多くの保護者が参加して実施することができたことは有意義であった。全体として保護者の多大な協力も得ながら概ね目標の達成を図ることができた。今年度の課題を踏まえ具体的な改善方法についての考察、教師間での共通理解を図っていきたい。</p>	3.5
---	-----

5・今年度の課題と具体的改善方法

課 題	具体的な改善方法
<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の保育行事計画を設定し、年間、学期、月別に活力に満ちた保育を実践し、子どもたちの健やかな成長を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスによる行動制限が無くなった状況下での本園の特色ある教育の実施に向けて、全職員共通理解の下計画を見直し、保育を実施していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・内外研修会や研究会に参加し、教育の専門性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度のアンケートで他園の公開保育への参加、自らのスキルアップするための研修への参加への高い意欲が覗える。今年度は3名を県外研修に派遣し、園内研修へと繋げることができた。次年度も研修への参加を奨励していくとともに派遣についても計画的に実施していく。 ・園内でのOJTが可能になる仕組み作りを推進する。
<ul style="list-style-type: none"> ・協働を円滑に行うための情報の共有方法について 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報管理、伝達ツールの活用・充実を図る。職員会議、管理者会議の提案・確認内容が集約され一本化される環境を構築する。 ・職員室の環境整備をしてより連携を強化できる環境を推進する。

6・財務状況・その他

<ul style="list-style-type: none"> ・公認会計士による外部監査、監事による内部監査を行い、理事会にて適正に管理・運用しているとの承認を得ています。

令和5年度 学校評価 関係者評価委員会纏め

1. 日時 令和6年3月15日（金）
2. 参加者
 - ・ 父母会長 當間陶子
 - ・ 理事長 津嘉山毅
 - ・ 評議員 金城栄司
 - ・ 評議員 新垣可那子
 - ・ 監 事 島袋盛一
 - ・ 園長 新城貴子
 - ・ 主幹 西原洋介
3. 会順（司会 主幹教諭 西原 洋介）
 - （1）はじめのあいさつ（司会）
 - （2）自己紹介
 - （3）学校関係者評価委員会の趣旨説明（園長）
 - （4）学校関係者評価委員委嘱状交付
 - （5）幼稚園経営説明（園長）
 - （6）自己評価について報告（園長）
 - （7）意見交換・懇談
 - （8）お礼・おわりのあいさつ（園長）

4. 意見・感想

[意見・感想]

- ・ 新型コロナウイルス感染症が今年度の5月から5類に移行したので行事等の計画の立て直しや変更が必要になり、苦労があったことが覗えた。子どもたちは、活動の幅が広がって園生活をとても楽しんでいた。私は学校に努めているが、全てを元に戻すのではなく、取捨選択をして必要なものは戻すが、そうではないものは精選をすることが大切だと思う。幼稚園もその視点も取り入れて検討した方が良いのではないかと思う。

令和6年3月15日（金）

14:30～

令和5年度 学校関係者評価委員会

司会 主幹教諭 西原 洋介

2. はじめのあいさつ（司会）
2. 自己紹介
3. 学校関係者評価委員会の趣旨説明（園長）
4. 委嘱状交付（園長）
5. 学校取り組み説明（園長）
 - （1）幼稚園経営説明
 - （2）学校評価
6. 意見交換・懇談
7. お礼・おわりのあいさつ（園長）

津山幼稚園学校評価について

（「幼稚園における学校評価ガイドライン 文部科学省」に沿って評価

1) 幼稚園の自己評価

幼稚園の教育目標を実現するための教育活動が適切に取り組みられたかどうかについて、評価項目に基づいて教職員自身が評価をする。

課題については改善策を練り、園の自己評価報告書を纏める。

2) 関係者評価

学校関係者（保護者や学校役員）で組織し、自己評価報告書を評価し自己評価の客観性・透明性を高める。（本会）

3) 外部評価（第三者評価）

学校運営の改善による教育水準の向上のため、学校関係者評価の結果及び今後の改善方策について、幼児教育や学校のマネジメント等について専門性を有する者（小学校校長）に専門的視点からの評価を行う。

令和5年度 学校評価 外部評価委員会纏め

- 1, 日時 令和6年3月15日(金)
- 2, 参加者
 - ・学識経験者 山田 浩也(糸満市立兼城小学校長)
 - ・理事長 津嘉山毅
 - ・園長 新城貴子
 - ・主幹 西原洋介
3. 会順 (司会 主幹教諭 西原 洋介)
 - (1) はじめのあいさつ(司会)
 - (2) 自己紹介
 - (3) 学校評価外部委員会の趣旨説明(園長)
 - (4) 学校評価外部委員委嘱状交付
 - (5) 幼稚園取り組み説明(園長)
 - ・幼稚園経営説明
 - ・学校関係者評価委員会の纏めについて報告
 - (6) 意見交換・懇談
 - (7) お礼・おわりのあいさつ(園長)
4. 意見・感想
 - ・ 学校関係者評価委員会の委員の意見を伺い、行事の精選・スリム化は必要であると思うが、私立の幼稚園の特色を生かしながら、保護者のニーズを十分に把握しながら両立を図っていくことが望ましいと思う。
 - ・ 年長の園児が小学校の教室での光景さながらに席について活動に取り組んでいた。このような環境は、幼稚園と小学校の接続上子どもたちにとって段差が小さいと思われる。それは、子どもたちが小学校に早く慣れ親しむことに繋がると思う。
 - ・ 職員室の環境整備をして働き方の改善に取り組んだ点は大変望ましい。人材確保が厳しい社会になっているので、先生方の働きやすい環境を整えることは重要である。
 - ・ 職員の自己評価の分析より、ほぼ80%以上の高い評価となっている。少し低い項目からは、先生方自身が自分たちを厳しく評価していることが推察される。そして、課題意識を持って高まっていこうという向上心が窺える。先生方が、更に技能を高めていきたいという思いが伝わるので、研修の機会を更に充実させていくことが大切である。そうすることにより意欲が効果に繋がっていく。先生方の益々の資質向上が期待できるので、学校評価を活かして今後も頑張っていただきたい。